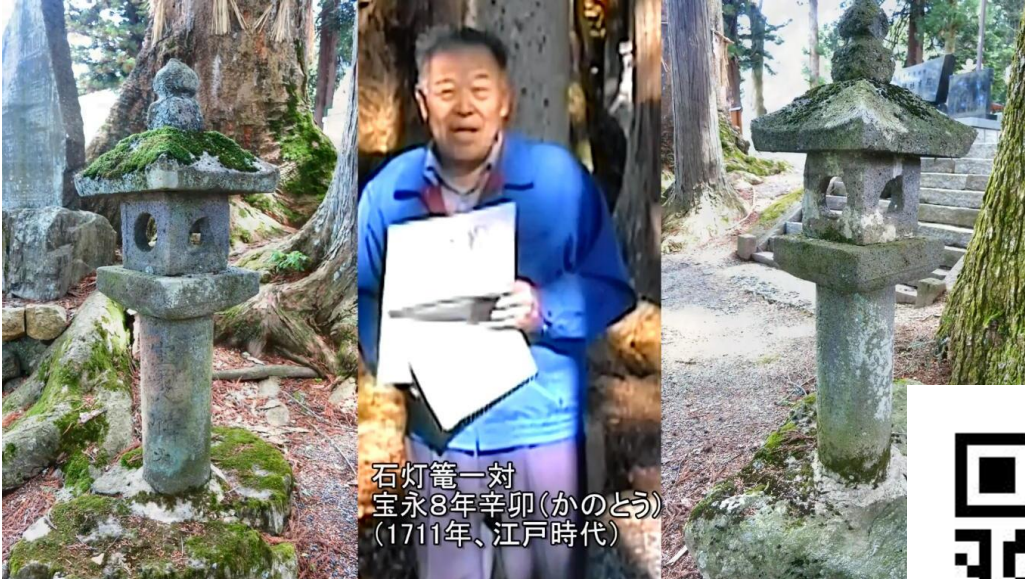


1. 石灯籠一式



[c01 石灯籠一対『熱田神社』勉強会シリーズ No.1](#)

→https://youtu.be/v4X_T77T1Lc



2. 立太子記念



[c02 立太子記念『熱田神社』勉強会シリーズ No.2](#)

→<https://youtu.be/kUfcFB8okHk>



3. 郵社・水鉢



郵社熱田神社

石工 芦沢 矢島高次郎(地)
石工 下古田 大槻亀五郎(地)



[c03 郵社・水鉢『熱田神社』勉強会シリーズ No.3](#)

→https://youtu.be/IUVHdR2VB_s

4. 熱田神社の文献

本殿は桁行三間、梁間二間で、四周に高欄を廻し、正面に向拝一間を設ける。屋根は入母屋造、こけら葺とし、両側面に軒破風を付ける。

身舎は切石の鳥股基壇上に円柱を土台とし、足圓長押・切目長押・腰長押・内法長押・頭貫を廻し、土台・各長押・頭貫に地紋彫を施す。円柱上に尾垂木一脱付の三手先組物を置いて、波や雲などを施した板支輪二段を廻す。側背面は頭貫鼻に獅子、尾垂木鼻に雲や帷の彫物を飾る。

四周に跳高欄付の縁を廻し、背面柱筋に脇障子を備える。腰組は獅子や龍の彫物を用いた三手先として板支輪を廻し、腰壁に彫物をはめ込む。正面には登高欄付木階および浜床・浜縁を備える。軒は二軒繁垂木、妻飾は虹梁大瓶束形付とする。

本殿の建立は棟札および「建立縁記」と記す板札によつて、宝暦九年（一七五九）九月に起工し、同二年一月に棟上、翌年一月に遷宮が行われたことが知られる。また、造宮文書として「熱田大明神棟上寛帳」（宝暦二年）、「産神宮建立勸化帳」（宝暦三年）、「熱田大明神遷宮諸障役付覚」（宝暦三年）の三冊が残る。棟梁は地元（旧濱口村）の池上善八郎で、武州妻沼村（現埼玉県大里郡妻沼町）の林兵庫正清の門人を名乗っている。彫物師は武州上田沢村（現群馬県勢多郡黒保根村）の関口文治郎、彩色は武州久保崎村（現埼玉県熊谷市）の森田清吉である。

天覆は板札によつて明治二年に「旧天覆」の規模を拡大して再建されたことが知られる。本殿の屋根には雨水が流れた跡があるが、風蝕が少なくことから建立後間もない時期から葺屋があったと考えられる。

熱田神社は赤石山脈西麓の秋葉街道沿いに位置する。西面する境内地後方の一段高い地に拝殿が建ち、その背後に接続する茅葺の大規模な天覆（覆窓）内に本殿が建つ。創立沿革は明かでないが、尾張國熱田神宮から日本武尊を勧請して産土神として祭り、その後明宮及び八咫大明神を合祀したと伝える。

熱田神社本殿 一棟

長野県上伊那郡長谷村大字濱口

「熱田神社本殿一棟」
重要文化財解説用資料
(県から国へ提出され)

熱田神社



[c04 熱田神社の文献『熱田神社』勉強会シリーズ No.4](#)

→<https://youtu.be/rtZns5hoRVc>

5. 熱田神社の由来



[c05 熱田神社の由来『熱田神社』勉強会シリーズ No.5](#)

→<https://youtu.be/HUkKsBZsTro>



6. 熱田神社本殿



[c06 熱田神社本殿『熱田神社』勉強会シリーズ No.6](#)

→<https://youtu.be/L2aYqUG2gZU>



7. おかみ神社



[c07 おかみ神社『熱田神社』勉強会シリーズ No.7](#)

→<https://youtu.be/LIE5LxM2bY0>



8. 境内の石造物



[c08 石造物『熱田神社』勉強会シリーズ No.8](#)

→<https://youtu.be/wSDym9wB2Lo>

